

## 事前評価表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）		事業計画期間	令和 3 年度～令和 7 年度（5 年間）												
事業実施地区名 （都道府県名）	（あばしりとうぶ） 網走東部森林計画区 （北海道）		事業実施主体	北海道森林管理局 網走中部森林管理署 網走南部森林管理署												
事業の概要・目的	<p>本事業は、北海道の北東部に位置し、網走中部森林管理署及び網走南部森林管理署管内の 2 市 9 町に所在する約 240 千 ha の国有林野を対象としている。</p> <p>森林の現況は、人工林面積が約 72 千 ha、天然林面積が約 14 千 ha となっており、資源量の目安となる森林蓄積は <math>196 \text{ m}^3/\text{ha}</math> で、北海道の平均 <math>147 \text{ m}^3/\text{ha}</math> を上回っている。また、森林面積の約 86% が水源涵養を主な目的とする保安林に指定されており、地域の水源林として基幹産業である農水産業の振興に資するとともに、生活環境に重要な役割を果たしている。</p> <p>人工林の齢級構成は約 84% が間伐適期とされる 7～12 齢級で、その中でも主伐期とされる 10 齢級以上の割合は約 47% を占め森林資源の本格的な利用期を迎えており、資源の循環利用の観点からも森林整備の必要性は一層高まっている。一方、オホーツク海沿岸ではホタテなどの養殖漁業を中心に営まれており、水系への流砂や濁水に配慮した森林施業が求められる。</p> <p>なお、本計画区は、世界自然遺産に登録された知床半島の一部を知床森林生態系保護地域に指定しており、「緑の回廊」として生態系と生物多様性を維持し、豊かな自然環境を次代に引き継ぐことが期待されている。さらに、知床国立公園や阿寒摩周国立公園などに指定される優れた自然景観を有しており、保健休養の場として多くの利用者が訪れることから、観光資源としての特性も兼ね備えている。</p> <p>こうした背景を踏まえ、本事業は地域の期待に応えるため、森林の有する公益的機能を持続的に発揮するために必要な森林整備を実施するとともに、効率的及び効果的に発揮するための路網整備を適切に実施する。加えて、高性能林業機械を適切に組み合わせた伐採と造林の作業システムにより、生産性と効率性を確保し、木材の安定的な供給を通じて林業・木材産業の振興に寄与する。</p> <p>・ 主な事業内容：</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">森林整備</td> <td>更新面積</td> <td style="text-align: right;">2,202 ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保育面積</td> <td style="text-align: right;">33,627 ha</td> </tr> <tr> <td>路網整備</td> <td>開設延長</td> <td style="text-align: right;">30.1 km</td> </tr> <tr> <td></td> <td>改良延長</td> <td style="text-align: right;">0.2 km</td> </tr> </table> <p>・ 総事業費 15,058,093 千円（税抜き 13,689,175 千円）</p>				森林整備	更新面積	2,202 ha		保育面積	33,627 ha	路網整備	開設延長	30.1 km		改良延長	0.2 km
森林整備	更新面積	2,202 ha														
	保育面積	33,627 ha														
路網整備	開設延長	30.1 km														
	改良延長	0.2 km														
費用便益分析	総 便 益（B）		64,630,218 千円													
	総 費 用（C）		20,267,503 千円													
	分析結果（B/C）		3.19													
森林管理局事業評価 技術検討会の意見	事業の必要性、効率性、有効性が認められることから、本事業を実施することが妥当であると考えます。															
評価結果	<p>・ 必要性： 保安林における水源涵養機能などの発揮により、農業振興や沿岸の漁場保全に資する観点及び「緑の回廊」による広範な森林生態系の保全などに寄与</p>															

する観点から、事業の必要性が認められる。

- ・効率性： 利用区域内における施業の優先度を勘案した路網整備を計画。また、高性能林業機械を組み合わせた作業システムの導入など、効率的な森林整備が計画されており、事業の効率が認められる。
- ・有効性： 本事業により、森林の有する公益的機能の持続的な発揮が期待されるとともに、その効果の発現により、地域の基幹産業である農水産業の振興や森林吸収源対策に寄与するため、事業の有効性が認められる。

新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用便益分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能（特に水源涵養）に応じた適切な森林整備及び路網整備が効果的・効率的に計画されていると認められる。

様式1

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業(国有林)

都道府県名：北海道

施行箇所：網走東部森林計画区(網走中部森林管理署・網走南部森林管理署)

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	13,014,671	
	流域貯水便益	2,935,692	
	水質浄化便益	10,606,623	
山地保全便益	土砂流出防止便益	20,011,033	
環境保全便益	炭素固定便益	9,454,313	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	334,328	
	木材利用増進便益	88,009	
	木材生産確保・増進便益	7,020,273	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	1,619	
	森林管理等経費縮減便益	24,313	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	1,139,344	
総 便 益 (B)		64,630,218	
総 費 用 (C)		20,267,503	
費用便益比	$B \div C = \frac{64,630,218}{20,267,503}$		= 3.19

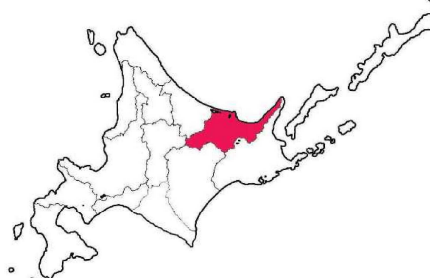
# 森林環境保全整備事業 網走東部森林計画区 事業概要図(網走中部森林管理署・網走南部森林管理署)



## 森林整備

更新面積 2,202 ha

保育面積 33,627 ha



## 路網整備

開設延長 30.1 km

改良延長 0.2 km

凡 例	
国 有 林	
主 要 山 岳	
鉄 道	
森林計画区界	
市 町 村 界	
森林管理署等	
森林管理署界	